

若年性認知症実態調査一次調査の結果について

今年度実施している、若年性認知症実態調査の一次調査の結果がまとまったので報告する。

1 一次調査回答状況

一次調査は、医療機関、介護サービス事業所、相談機関等に対して、若年性認知症の担当事例の有無を確認する調査を実施した。

一次調査票を発送した機関とそれぞれの回収率は、以下のとおりとなっている。

対象機関種別	発送数	回答数	回答率 (%)	若年性認知症の人を担当している機関数		担当している人数 (人)	
				若年	若年発症	若年	若年発症
病院	8	4	50.0	1	1	3	2
認知症アドバイザー医	60	46	76.7	1	2	2	11
精神科クリニック	9	5	55.6	0	0	0	0
居宅支援事業所	90	81	90.0	13	9	14	11
訪問看護事業所	29	25	86.2	2	2	2	2
地域密着型介護事業所	25	25	100.0	1	2	1	2
特別養護老人ホーム	11	9	81.8	1	2	1	3
有料老人ホーム	12	8	66.7	1	0	1	0
障害支援事業所	23	20	87.0	1	0	1	0
相談機関	14	14	100.0	7	2	16	3
(不明)		5					
合計	281	242	86.1	28	20	41	34

※担当している人数には、複数の機関で担当している重複を含む。

2 一次調査で把握した若年性認知症の人数について

今回の調査では、現時点で65歳未満の人だけでなく、65歳以上であっても若年に発症したことが明らかな人（以下若年発症の認知症とする）についても調査の対象とした。

各関係機関が2016年10月～2017年10月までの1年間で、担当した若年性認知症の人は36名、若年発症の認知症の人は33名であった。

3 今後の予定について

二次調査として、一次調査で対象者ありと回答した関係機関に対して、担当者調査票及び本人・家族調査票を送付し、サービスの利用状況や本人の状態、家族が抱える介護上の困難などについて調査する。

二次調査の質問票については、東京都健康長寿医療センター研究所が作成した標準的な調査票に、中野区での今後の施策に活かすために必要となる項目を追加して実施する。

【質問項目】

担当者調査：全15項目

疾病状況4項目、就労・生活状況4項目、医療・介護の提供状況4項目、自由意見1項目

中野区独自項目2項目（病気の初期と症状が進んだ段階それぞれでの困難に感じる事、必要と考える支援やサービスについて）

本人・家族調査：全33項目

家族構成等基本的事項2項目、認知症の気づき、受診、診断について8項目、介護保険等のサービスや支援について5項目、就労、運転、経済状況について14項目、必要と感じた情報について1項目、困っていること1項目、自由意見1項目

中野区独自項目1項目（必要な通いの場について）

さらに、二次調査の本人・家族調査で了解を得られた本人及び家族に対し、区職員が面接し、認知症進行ステージそれぞれの段階に応じた課題や必要な支援について、さらに詳細な聴き取り調査を行う。

4 実施スケジュール

平成29年 12月 二次調査発送

平成30年1～2月 面接調査

3月 調査結果まとめ